

令和6年度第3回山形県特定鳥獣保護管理検討委員会 発言趣旨

1 日時 令和7年2月4日（火）午後1時30分～2時15分

2 開催方法 オンライン（Zoom）

3 委員（敬称略）

鈴木正嗣（岐阜大学）、江成広斗（山形大学）、山内貴義（岩手大学）、丸山哲也（栃木県林業センター）、遠藤春男（山形県猟友会）、松野尚（山形県獣医師会、片桐紘一の代理）、豊後真（山形市）、野口勝世（最上町）、安達怜央（米沢市、富取千代子の代理）、白幡赳弥（鶴岡市、高橋修也の代理）、下山智弘（山形県農村計画課、門脇健の代理）

4 発言趣旨

（1）第2期山形県ニホンジカ管理計画（案）について（協議）

全体について

（鈴木委員・江成委員）

- ・第2期計画の要点は、早期の被害抑制の拡充であり、捕獲から手を引くという意味合いではないことを必要な場面では説明する必要がある。

被害の把握について

（江成委員）

- ・被害状況の把握方法について、市町村へのアンケートの精度を上げる必要があると思うが、具体的な方針はあるか。

（事務局）

- ・政策の目標のところに記載の、シカを含めた被害対策の普及啓発について、市町村にも参加してもらってシカに係わる内容の認知度を上げていきたい。

放獣体制整備について（配付資料なし）

（事務局）

来年度から麻酔銃使用体制構築のために関係者に現地OJTを含めた研修を実施する予定である。

（江成委員）

- ・麻酔銃使用は、錯誤捕獲だけでなく、市街地出没の対応でも必要であり、その体制整備には、早急な対応が求められるので総合的な支援のあり方の検討が必要である。

（鈴木委員）

- ・市街地出没対応については、市町村の責任になってくる部分が多い。対応方針を見ても、基本的に市町村で県は様々助言していく立場になってくると思う。市街地出没の訓練は全国的に行われているが、報道を見る限りでは現実味を欠く進行となっている場合があり、県はシナリオ等のチェックや助言をするのがよい。

（2）ツキノワグマ生息状況調査及び捕獲水準等について（報告・協議）

（事務局）

令和7年2月4日に酒田市で発生したツキノワグマの市街地出没の対応で担当が出席できないため、時期及び方法について後日連絡する。